

東北における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：太田貴（やろっこ）

研究要旨

広域地域である東北地域で、ゆうそう検査キットの配布を実施した。ゆうそう検査キットをほぼ計画通りに実施できた。特に WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。対面配布と WEB 配布の受け取り者に大きな差異はみられず、検査ニーズの高い MSM に届いていたと考えられる。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 172 キット、2 年度目に 206 キット、最終年度に 153 キットの配布ができ、総計で 531 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 1 件、最終年度が 2 件（総計で 5 件、1.3%）、梅毒の陽性件数は初年度が 8 件、2 年度目が 13 件、最終年度が 11 件（総計で 32 件、8.9%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~97.6%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 1 名であった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症パンデミックに伴い、保健所での検査提供は以前縮小、落ち込みが続いている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

東北地域では、自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査をコミュニティセンター ZEL での配布と WEB にて配布を行った。

B.研究方法

コミュニティセンター ZEL では、本ゆうそう検査に関する説明事項を含むメッセージをやろっこの公式 HP、ポスター、4 種類の SNS、ブログ、フリーペーパーと公式 Twitter 等の SNS で配信した。またゲイ向けアプリの起動時広告も活用した。また北

海道地域とも連携し、アプリ広告を活用した広報を行った。

検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケート QR コードを提示し、自分のスマートフォンから答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。

また、インターネット上の広報からアンケートページにつなぎ、その後、郵送検査の自宅・郵便局での受け取りのページに進める WEB 完結型の方法を併用した。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

令和2年度は総計172キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布40件、WEBでの配布が132件であった。

アンケートに回答したものは180名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは133名であった。96.2%が結果サイトにログインしていた。

HIV陽性件数は2件、梅毒の陽性件数は8件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した133名のうち、96名（72.2%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者96名の属性については、35歳未満が60.4%を占めた。宮城県の居住者が57.3%、岩手県の居住者が10.4%であった。青森県、山形県もそれぞれ8.3%の利用があった。これまでの検査経験がなかったものの割合は28.1%であった。過去1年の検査経験がな

かったものは全体のうち77.1%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は46.9%を占めた。

令和3年度は総計206キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布27件、WEBでの配布が179件であった。

アンケートに回答し有効回答であったものは168名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは126名であった。97.6%が結果サイトにログインしていた。HIV陽性件数は1件、梅毒の陽性件数は13件（既感染も含む）であった。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつID連結の同意を得た12名においては、30歳未満が8.3%を占めた。東北地域の居住者が100.0%であった。生涯初の検査経験割合は25.0%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち41.7%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は41.7%を占めた。

WEB配布かつID連結の同意を得た62名においては、30歳未満が48.4%を占めた。東北地域の居住者が95.2%であった。生涯初の検査経験割合は22.6%であった。過去1年の検査経験がなかったものは全体のうち45.2%であった。MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は50.0%を占めた。

東北地域で、ゆうそう検査キットの配布を実施した。ゆうそう検査キットをほぼ計画通りに実施できた。特にWEBでの申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。

最終年度は総計153キットを配布した。

コミュニティセンターでの対面配布 28 件、WEB での配布が 125 件であった。

アンケートに回答し有効回答であったものは 164 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは対面配布 23 件 (82.1%)、WEB での配布が 97 件 (77.6%) の総計 120 名 (78.4%) であった。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 11 件 (既感染も含む) であり、重複感染が 1 件であった。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 22 名においては、30 歳未満が 22.7% を占めた。東北地域の居住者が 100.0% であった。生涯初の検査経験割合は 22.7% であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 68.2% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 45.4% を占めた。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 58 名においては、30 歳未満が 27.6% を占めた。東北地域の居住者が 100% であった。生涯初の検査経験割合は 24.1% であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 53.4% であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 62.1% を占めた。

D. 考察

最終年度まで新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査件数が減少し、定期的に保健所で検査を受けていた人が、キットを受け取りに来ることがあった。

最終年度には 4 地域に会場を設定し、対面配布を実施でき、ZEL 利用者のみならず、初めて検査を受検する人もいた。キット受

け取り者からは、保健所の検査が休止しているため検査を受けられずにいたのでありがたいとの声や WEB 配布ではとりあえず受け取っておいて、期限ギリギリまで使わないという行動も見られた。

また東北地域は広範囲であるため、会場へのアクセスにも課題がある。そのため、自宅・郵便局受取りのニーズが高いことが明らかとなった。

この配布の機会を通じて、キット受け取り者の多様な相談対応につながった。具体的には、PrEP、U=U、陽性判明時の相談、梅毒の治療などの相談が寄せられた。

E. 結論

広域地域である東北地域で、ゆうそう検査キットの配布を実施した。ゆうそう検査キットをほぼ計画通りに実施できた。特に WEB での申し込み、郵便局での受け取りニーズが高いことが明らかとなった。対面配布と WEB 配布の受け取り者に大きな差異はみられず、検査ニーズの高い MSM に届いていたと考えられる。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 172 キット、2 年度目に 206 キット、最終年度に 153 キットの配布ができ、総計で 531 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 1 件、最終年度が 2 件 (総計で 5 件、1.3%)、梅毒の陽性件数は初年度が 8 件、2 年度目が 13 件、最終年度が 11 件 (総計で 32 件、8.9%、いずれも既往歴も含む) であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~97.6% は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3

年間で1名であった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBOが検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装

者2名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.

- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

2.学会発表 (国内)

- 1) 塩野徳史. 日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-. *日本エイズ学会 2022 年 浜松*.
- 2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. *日本エイズ学会 2022 年 浜松*.
- 3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. *日本エイズ学会 2021 年 東京*.
- 4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. *日本エイズ学会 2020 年 千葉*.

G.知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -令和4年度）

	年度	R2	R3	R4	
	地域	東北	東北	東北	
	CBO	やろっこ	やろっこ	やろっこ	計
	コミュニティセンター	ZEL	ZEL	ZEL	
a 配布数		172	206	153	531
対面配布数			27	28	
WEB配布数			179	125	
b 受検者アンケート回答者数		180	168	164	512
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		133	126	120	379
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	23 (82.1%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	97 (77.6%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		77.3%	61.2%	78.4%	71.4%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		128 (96.2%)	123 (97.6%)	115 (95.8%)	366 (96.6%)
抗体検査結果				*重複感染（1名）	*重複感染（1名）
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		3 (2.3%)	3 (2.4%)	2 (1.7%)	8 (2.1%)
f 陽性数（割合 f/c）		2 (1.5%)	1 (0.8%)	2 (1.7%)	5 (1.3%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		1.4 (1.1%)	0.0 (0.0%)	0.9 (0.8%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		9 (6.8%)	5 (4.0%)	4 (3.3%)	18 (4.7%)
h 陽性数（割合 h/c）		8 (6.5%)	13 (10.7%)	11 (9.5%)	32 (8.9%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		1.4 (1.1%)	6.5 (5.4%)	5.8 (5.0%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		96 (72.2%)	74 (58.7%)	80 (66.7%)	250 (66.0%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	80 (63.5%)	79 (65.8%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	49 (38.9%)	50 (41.7%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。